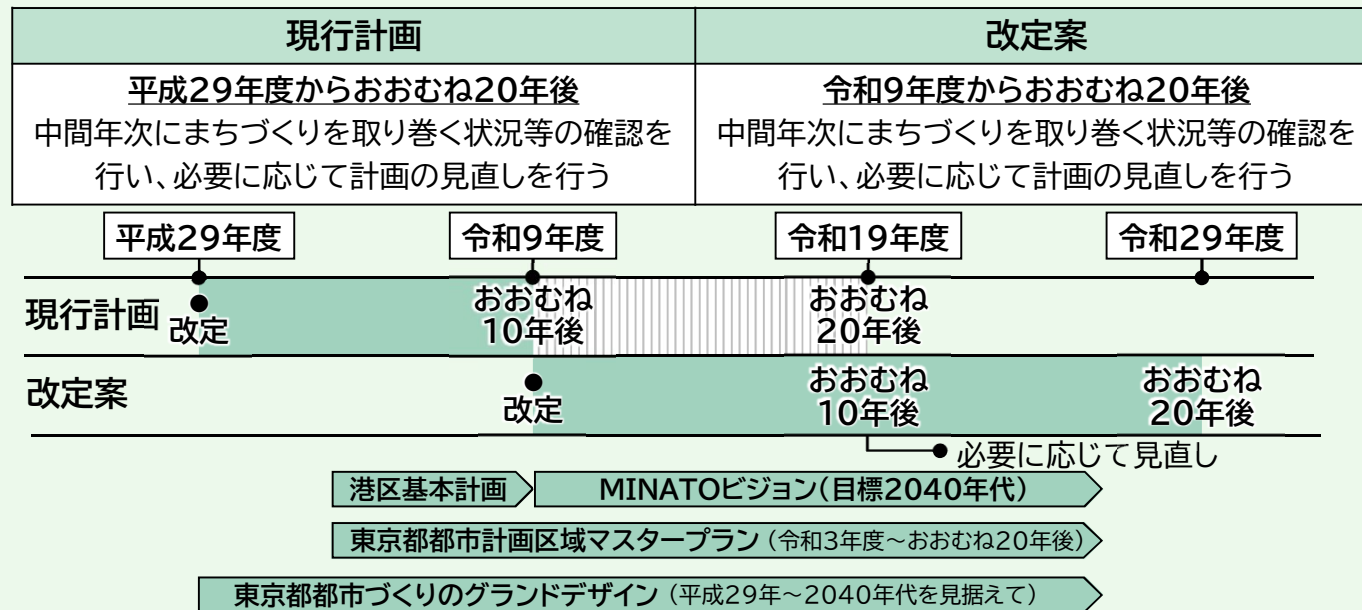


改定マスタープランの方向性

1. 目標年次について



2. まちづくりマスタープランの構成について

■ 構成改定案のポイント

今回の改定では、基本的な構成は継承し、具体的な内容については、社会的背景、上位関連計画を踏まえて全面改正します。構成における改定のポイントは以下のとおりです。

■ポイント①【 将来像をMINATOビジョンと共有 】

- MINATOビジョン(令和8年度策定予定)との整合を図るために、改定マスタープランの将来像をMINATOビジョンの将来像に合わせます。

■ポイント②【 分野横断的な視点の新設 】

- 社会的背景の変化や現行計画の評価から得た課題等を踏まえ、分野横断的に取り組むべき視点を新設します。

■ 現行まちづくりマスタープランの構成



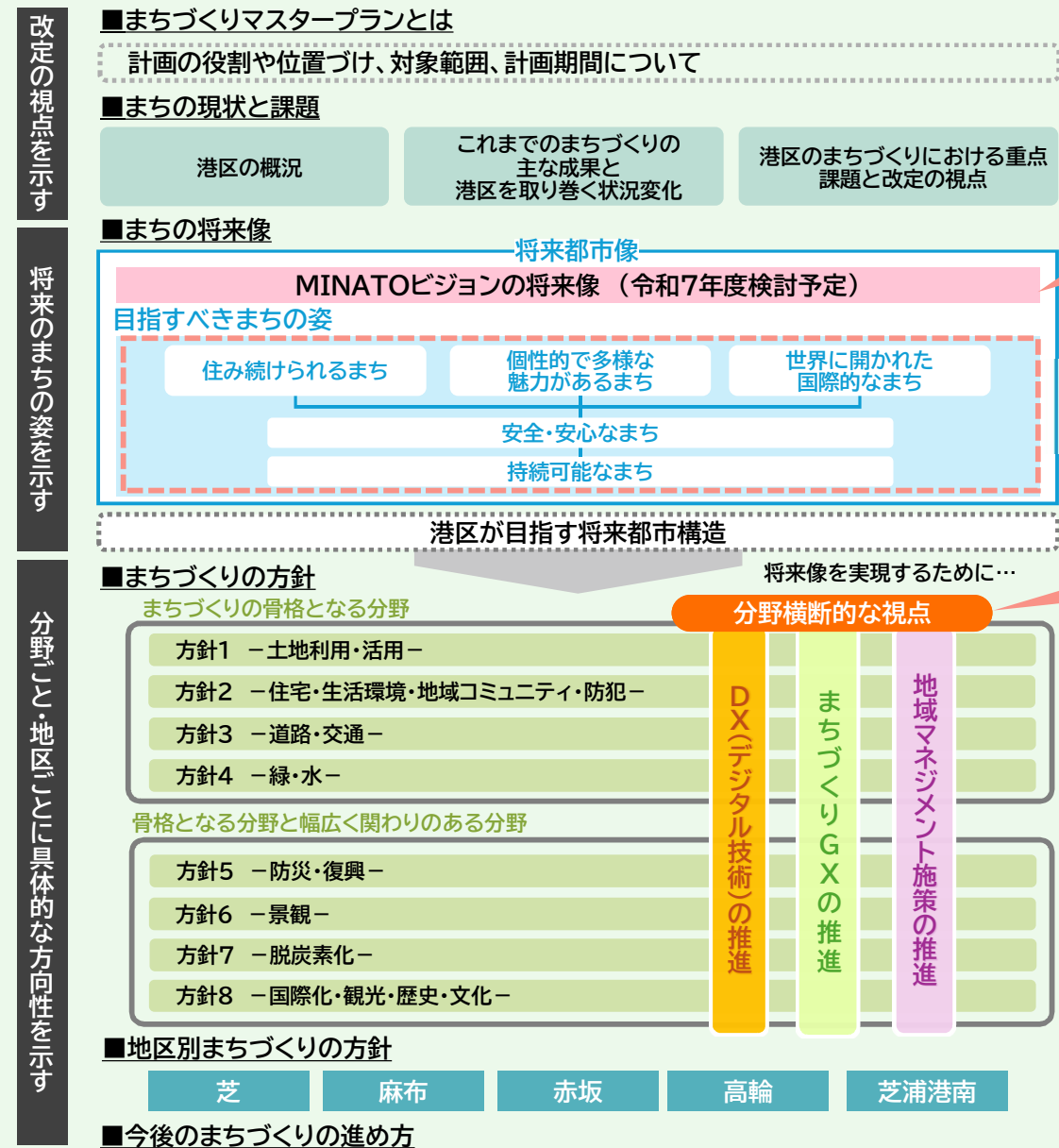
改定の背景

- ・社会潮流、ソフトまちづくりの進展
- ・国や都の動き、グローバルまちづくり
- ・20年後を見据えたトレンド・未来予測
- ・港区を取り巻く環境(周辺区のまちづくりの進展)

重点課題

- ①DX活用
- ②ゼロカーボンシティ委
- ③エリア連携
- ④激甚化する災害への対応
- ⑤インクルーシブまちづくり

改定案



ポイント①

※将来像や方針などと合わせて今後検討

ポイント②

改定マスタープランの方向性

3. まちづくりの方針について

分野横断的な視点の新設

資料2-4では、現行計画の評価から抽出された課題や、近年の社会情勢の変化を踏まえ、改定マスタープランにおいて重点的に取り組むべき5つの課題を設定しています。

今後、東京の中でも国際生活都市として先導的な役割を果たし、これからの時代に即したまちづくりを誘導していくためには、都市の効率化と、柔軟かつ持続可能な都市運営を踏まえた取り組みが求められます。

これらの重点課題は、複雑かつ多面的な性質を有しているため、分野横断的な連携が不可欠です。そこで、これらの重点課題を解決するため、「DX(デジタル技術)の推進」、「まちづくりGXの推進」、「地域マネジメント施策の推進」を分野横断的な視点として位置づけることで、各分野が相互に補完し合い、相乗効果を生み出すことが期待されます。

5つの重点課題

①複雑化する都市課題への対応

②環境負荷の低減と快適な都市空間の両立

③自律的な地域運営と多様な主体の連携

④激甚化する災害への対応力の強化

インクルーシブなまちづくりへの対応

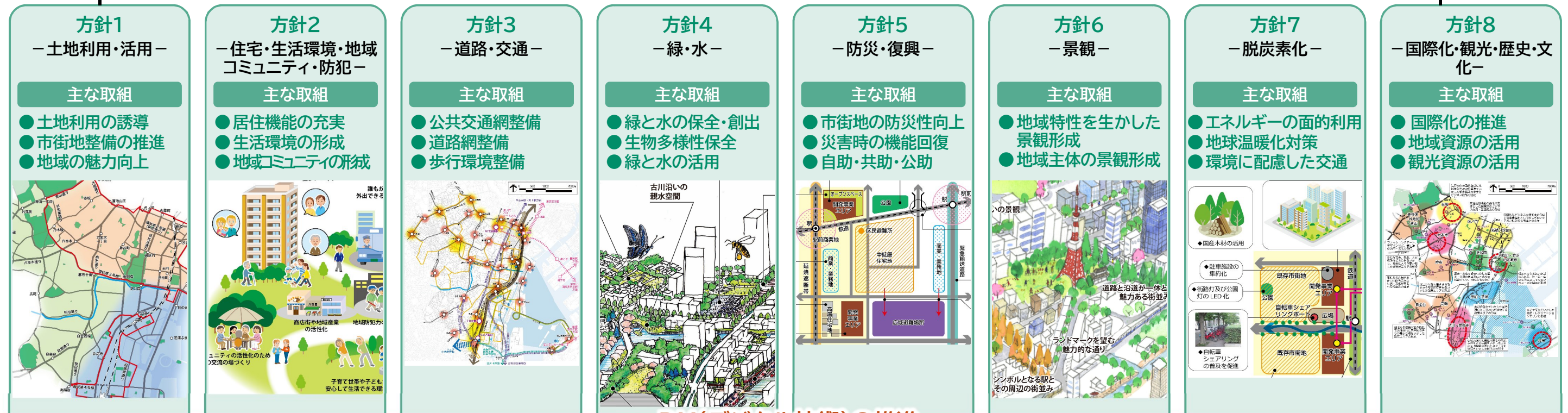
分野横断的な視点

DX(デジタル技術)の推進

まちづくりGXの推進

地域マネジメント施策の推進

分野別のまちづくり方針



～DX(デジタル技術)の推進～

AI防犯カメラなどによる防犯対応

人流データの活用

IOTセンサーによる樹木管理
アプリの活用などに情報共有

防災シミュレーション
区民や来街者等への迅速な情報共有

先端技術を活用した新たな景観の啓発

都市環境シミュレーション
エネルギー使用量やCo2排出量の効率化

DX等を生かした環境整備
AIによる観光案内や新技術の活用

～まちづくりGXの推進～

既存ストックの活用も含めた都市再生

住宅の脱炭素化

新たな技術の活用
モビリティハブの整備
人中心のウォカブル空間の創出

環境負荷の少ない公園・オープンスペース

自立分散型エネルギー
グリーンインフラの活用

太陽光パネル設置等に対する景観への配慮

～地域マネジメント施策の推進～

エリアマネジメントの地区間連携

地域コミュニティの活性化

官民連携のスマートシティの促進

公共空間を活用したエリアマネジメント

エリア間連携による地域防災力の向上

文化・観光資源を活用したエリアマネジメント

改定マスタープランの方向性

3. まちづくりの方針について

現行計画の評価から抽出された課題、近年の社会情勢等の変化、港区内外のまちづくりの動きを踏まえ、まちづくりの方針ごとに改定マスタープランに追加する取組(案)を整理しました。

分野	現行計画の評価を踏まえた課題	近年の社会情勢の変化などを踏まえた視点	改定するマスタープランに追記する取組(案)
方針1 —土地利用・活用— ● 土地利用の誘導 ● 市街地整備の推進 ● 地域の魅力向上	<ul style="list-style-type: none"> 開発事業等の推進によりエリアマネジメントに関する個々の取組は進展したが、地区間の連携が図られていない 港区の魅力である運河や海などの水辺の魅力を生かしたまちづくりが不十分 	<ul style="list-style-type: none"> 質の高い高次都市機能 国家戦略特区整備後のソフトまちづくり まちの発展と環境負荷低減の両立 まちづくりとしてのウェルビーイングへの対応 	<ul style="list-style-type: none"> 水辺に開かれたまちづくりの推進 新たなニーズに応じた高次都市機能の誘導 ウェルビーイング向上に資する都市開発 開発・修復・保全を組み合わせた既存ストックの活用も含めた都市再生 エリアマネジメントの地区間連携
方針2 —住宅・生活環境・地域コミュニティ・防犯— ● 居住機能の充実 ● 生活環境の形成 ● 地域コミュニティの形成	<ul style="list-style-type: none"> 多様な世帯が安心して定住できるよう、更なる居住環境の充実と住宅セーフティネットの構築が求められる 増加する高経年マンションの適切な管理 	<ul style="list-style-type: none"> 既存ストックを活用した地域交流の場の創出 住宅価格が高騰し、子育て世代を含む住民の流出が懸念 スポーツ・健康づくりの機会創出 	<ul style="list-style-type: none"> 住宅セーフティネットワークの強化 マンションの管理適正化の推進 若年夫婦・子育て世帯等の定住促進 AI防犯カメラやスマートポールなどの活用による防犯対応 住宅の脱炭素化 スポーツ・健康まちづくりの推進
方針3 —道路・交通— ● 公共交通網整備 ● 道路網整備 ● 歩行環境整備	<ul style="list-style-type: none"> 舟運については、通勤目的のルート運行開始などの取組が進められているものの、公共交通の一部としては十分に定着していない 近年、全国的に路線バスの減便・廃止の要因として運転手不足が挙げられる 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な交通手段が想定される中で、DX化による都市空間の効率化が求められる 次世代モビリティなどの新技術への対応 ウォーカブルなまちづくりの進展 リニア中央新幹線の開通や地下鉄新線の延伸 	<ul style="list-style-type: none"> 水辺空間の整備と併せた舟運の活用 リニア中央新幹線や地下鉄新線を見据えた利用環境の整備 最先端のテクノロジー（Maasなど）やデータ活用による交通利便性の向上 自動運転や次世代モビリティなどの新たな技術の活用 多様な交通モードに対応したモビリティハブの整備やラストワンマイルの充実 人中心のウォーカブル空間の創出 先端技術を活用したサービス等の実装に向けた官民連携のスマートシティの促進
方針4 —緑・水— ● 緑と水の保全・創出 ● 生物多様性保全 ● 緑と水の活用	<ul style="list-style-type: none"> 水と触れあえるにぎわい空間の創出やイベント開催など、水辺空間の活用は十分とは言えず、さらなる取組の推進が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ネイチャーポジティブなまちづくり 多様なニーズに対応した民間活力の推進 インクルーシブ(誰にも開かれた)な公共空間の整備 	<ul style="list-style-type: none"> 水辺の活用によるにぎわいの創出 自然環境が持つ多面的機能を発揮するグリーンインフラの充実 パークPFIなどの民間活力を生かした公園管理 インクルーシブに対応した公園等の整備の推進 IoTセンサーによる樹木管理 アプリの活用などによるプレーパークやにぎわい創出イベント等の情報共有 環境負荷の少ない公園・オープンスペース等の整備 公園等の公共空間を活用したエリアマネジメント活動によるにぎわいの創出
方針5 —防災・復興— ● 市街地の防災性向上 ● 災害時の機能回復 ● 自助・共助・公助	<ul style="list-style-type: none"> 増え続ける高経年マンションへの対応が求められる 近年増加している局地的集中豪雨などの都市型水害の対策が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 人手不足や様々な情報発信などに対応した防災のDX化が求められている 老朽化しているインフラへの対応 災害時における一律対応から個別ニーズへの転換 	<ul style="list-style-type: none"> 都市型水害に対応した取組 様々な帰宅困難者に対応するインクルーシブな防災施設の整備 デジタルツイン技術を活用した防災シミュレーション等の実施 ドローンなどの先端技術を活用した防災対策の推進 防災アプリやデジタルサイネージなどを活用し、区民や来街者等への迅速な情報共有 インフラの維持管理におけるDX化の推進 自立分散型エネルギー、グリーンインフラの活用 エリア間連携による地域防災力の向上に資するエリアマネジメント活動の促進
方針6 —景観— ● 地域特性を生かした景観形成 ● 地域主体の景観形成	<ul style="list-style-type: none"> 区内に多く立地する歴史的建造物等を生かした魅力ある景観を形成するため、これらの保全が求められる 	<ul style="list-style-type: none"> 歴史的建造物等の保全 夜間のにぎわい形成に資する景観形成 まちづくりにおけるアートの活用 	<ul style="list-style-type: none"> 歴史的建造物等の保全を踏まえた都市景観づくり 地域の個性を生かした夜間景観の形成 アートをいかしたにぎわい景観の形成 VRなどの先端技術を活用した新たな景観の啓発 太陽光パネル設置等に対する景観への配慮
方針7 —低炭素化— ● エネルギーの面的利用 ● 地球温暖化対策 ● 環境に配慮した交通	<ul style="list-style-type: none"> 2050年カーボンニュートラルの実現に向けて、様々な分野における脱炭素化の取組が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ウォーカブルによる脱炭素化 リノベーションによる再生まちづくり 都市の遮熱対策 多様な働き方に対応したテレワークの推進 	<ul style="list-style-type: none"> 区有施設のゼロエミッション化の実施 まちづくりにおける暑さ対策の推進 デジタルツインによる都市環境シミュレーションの活用 AIを生かしたエネルギー使用量やCO2排出量の効率化の推進
方針8 —国際化・観光・文化— ● 国際化の推進 ● 地域資源の活用 ● 観光資源の活用	<ul style="list-style-type: none"> 外国人観光客受入時の懸念事項として「言葉の問題」が最も高く、まちづくりを通じた環境整備が求められる 歴史・文化資源は豊富にあるものの、観光資源としてとして魅力を高めることが必要 子どもも含め、身近に多様な文化芸術にふれあえる機会や環境の整備が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ナイトタイムエコノミーの推進 みなと芸術センター(m～m)の整備による区民の文化芸術振興に対する期待感 アートを活用したまちのにぎわいづくり 多様な来訪者に配慮した観光・文化環境への対応 	<ul style="list-style-type: none"> 歴史的資源を守り、触れ合えるまちづくりの推進 ナイトタイムを生かした観光まちづくり 街なかでアートに触れ合える場の充実 みなと芸術センター(m～m)の活用による文化芸術に身近に触れ合える環境づくり DX等を生かした多言語化など国際都市としての環境整備 AIによる観光案内やIOTによる混雑状況検知サービス等の新技術の活用 文化・観光資源を活用したエリアマネジメント活動による地域のブランド価値の向上